

RFID キャップと IoT デバイスの連携

自動発注システムなど情報を共有できる仕組みで顧客利便性と環境配慮を実現

RFIDとIoT技術を組み合わせることであらゆる場所でデバイスと接続され、情報を共有することができる容器となります。製品(RFIDタグ内蔵キャップ等)はインターネットに接続された様々なデバイス(スマートフォン、タブレット、センサーなど)を通じて、どこにいても情報をやり取りできる環境を実現します。

飲料メーカーや食品メーカーなどは、IoT技術を活用した容器(キャップ)を採用することにより一般消費者にとってより魅力的なキャンペーンの実施や商品説明など、新たなサービスや高付加価値商品を開発することが可能となります。

RFID タグ内蔵キャップ



- ① 従来の容器用キャップとほぼ同等のサイズと基本性能を有する
- ② 周波数2.45GHzながら、飲料等の水分による電波損失を防止
- ③ パッシブタイプで通信距離10cmを確保
- ④ 個体IDはチップ製造時に書き込み

東洋製罐(株)・日本電気(株)と共同で
ペットボトル容器用RFID*タグ内蔵キャップを開発。

※無線周波数識別(Radio frequency identification)の略称。
無線を利用して個体識別を行う技術のこと。